学校評価

結果と分析

R５年度

学校評価の結果

保護者の評価は全体的に高い

保護者	教職員
３．４６／4	３．０９／4

※４段階評価

結果・分析における３つの視点

1. 本校の強み
2. 教職員・保護者間の認識の差
3. 本校の課題

１.本校の強み

保護者　１．本校の強み　TOP３

〇学級費などの適切な説明

〇児童生徒理解、信頼関係

○食育、食事の適切な指導

保護者　１．本校の強み　TOP３

〇学級費などの適切な説明【3.68】

〇児童生徒理解、信頼関係【3.65】

○食育、食事の適切な指導【3.61】

番号	カテゴリ	評価項目	教職員R５	保護者R５
18(保)	服務	学校は、学級費等について適切に説明報告をしている。		3.68
23(保)	教育課程	学校は、日常の教育活動の中で、児童生徒の理解に努め、信頼関係を築いている。		3.65
31	教育課程	学校は、食育・食事の指導を適切に実施し、効果を上げている。	2.75	3.61

教職員　１．本校の強み　TOP３

〇いじめ防止と適切な指導

〇自立活動の充実

〇体罰のない環境づくり

教職員　１．本校の強み　TOP４

〇いじめ防止と適切な指導【3.３０】

〇自立活動の充実【3.２７】

〇体罰のない環境づくり【3.２７】

番号	カテゴリ	評価項目	教職員R４	教職員R５
12(教) (保)	いじめ ・体罰	学校は、いじめ防止の方針を共有し、児童生徒に対して適切な指導や支援を行っている。 学校は、いじめ防止の方針を理解し、児童生徒に対して適切な指導や支援を行っている。	3.02	3.30
13(教) (保)	いじめ ・体罰	学校は、適切な言葉遣いや態度で、体罰の無い環境づくりに努めている。 学校は、人権を大切にした言葉遣いや態度で、体罰の無い環境づくりに努めている。	2.95	3.27
27(教)	教育課程	学校は、自立活動を適切に実施し、効果を上げている。	2.74	3.27

２.教職員・保護者間の認識ギャップ

２．教職員・保護者間の認識ギャップ　TOP３

①食育・食事の適切な指導【評価差:0.86】

②個別の教育支援計画の作成と活用【評価差:0.４９】

③個別の指導計画の活用と確かな学力等の育成【評価差:0.４６】

番号	カテゴリ	評価項目	教職員R５	保護者R
2	個別の教育支援計画・個別の指導計画	学校は、一人一人の教育的ニーズに応じ保護者と共通理解し、「個別の教育支援計画」を作成し活用している。	3.12	3.61
3	個別の教育支援計画・個別の指導計画	学校は、「個別の指導計画」を活用し、確かな学力等を育む授業を展開している。	3.02	3.48
31	教育課程	学校は、食育・食事の指導を適切に実施し、効果を上げている。	2.75	3.61

3.本校の課題

教職員　３．本校の課題（評価が２点台）

☑食育・食事の適切な指導（２．７５）　２年連続

☑業務の効率化・時間外勤務縮減（２．８５）　３年連続

番号	カテゴリ	評価項目	教職員R５	保護者R
21(教)	服務	学校は、効率よく業務にあたり、時間外勤務縮減に取り組んでいる。	2.85	
31	教育課程	学校は、食育・食事の指導を適切に実施し、効果を上げている。	2.75	3.61

主要課題の比較

Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度
関係機関との連携・進路指導	地域への情報提供・発信	業務の効率化・時間外勤務縮減
教科別指導の適切な指導・効果	業務の効率化・時間外勤務縮減	食育・食事の適切な指導
合わせた指導の適切な指導・効果	キャリア・学びの連続性	
地域への情報提供・発信	食育・食事の適切な指導	
研修等による専門性の向上		
業務の効率化・時間外勤務縮減		

今後の方向性

☑食育、食事の指導

☑食育、食事の指導

アンケート記述

- 食育は摂食指導だけでなく、食べる姿勢や食器の持ち方、よく噛んで食べること、栄養や季節の食べ物について学ぶことが含まれる。これらについて、より多くの教諭や関係機関と連携して取り組むことが求められる。
- 給食の献立表に食育に関するコラムを掲載するなど、食育の推進に役立つ工夫が必要。
- 「リクエスト給食」や「季節の給食（行事食）」について、寄宿舎での特別メニュー（例：クリスマスメニュー）の代わりに、全ての児童生徒が関連できるような「卒業生のためのリクエスト給食」への変更が提案されている。
- 一食の献立に、肉料理が複数含まれる、彩りがない。連日同じ食材が続くなどの問題がある。
- 季節感を感じ取れるメニューや行事食を増やすことで、食育の指導がしやすくなる。
- 給食メニューの偏りを減らし、行事食や地産地消を取り入れることで児童生徒の食育につなげることが望ましい。

☑食育、食事の指導

課題

- ☐献立の偏り、行事食等の提供機会が少ない
- ☐食育の推進のための工夫、連携が不足

方向性

【目的】児童生徒の心身の健全な発達・食に関する正しい理解と適切な判断

【部署】生活安全部（栄養教諭）を中心に

- 献立の改善。
- 各学級で行事食などの特色あるメニューが出たときに、料理や食文化などについて話す。
- 食育に関する掲示や授業の実施。

☑時間外勤務縮減

３年連続

☑時間外勤務縮減

アンケート記述

- 個別の指導計画の添削時期に業務が滞ることから、システムの見直しが必要であると感じられる。
- 学校評価、働き方改革、学校行事などに教諭が多くの役割を担うことが大きな負担になっている。管理職による業務推進の必要性が指摘されている。
- 決まった人に時間外勤務が集中している状況にあり、これに対する調整が求められている。
- 日中の空きコマが少なく、教材研究などに十分な時間を割けず、時間外に業務を行っている状況がある。
- 専門職職員が業務を一人で多く抱え、時間外勤務になることが多い。
- 基本退勤時間の設定や鍵の貸し出しを行事前や評価時期に限定するなどの取り組みが必要である。
- 職員のタスク管理スキルアップのための研修や、打ち合わせ時間の上限設定、内線使用の頻度削減などの提案がある。
- 業務の精選や改善提案に関する困難さが指摘されており、職員の率直な声を集約することが難しい状況がある。

☑時間外勤務縮減

課題

- 個別の指導計画等の添削による業務滞りとシステム見直しの必要性。
- 教諭の過重負担と管理職の業務推進の必要性。
- 業務量が多い、業務削減（業務改善）の難しさ。
- 業務の効率化に向けた取り組み方法の統一の困難さ。

方向性

【目的】業務の効率化と時間外勤務の縮減

【部署】各学部、寄宿舎、分掌単位でそれぞれ工夫をし、働き方を見直す

- 業務のスリム化（業務の精選、効率化、削減）
- 業務量の均一化

自由記述から

意見の要約

1. **教育と指導計画の問題**
2. **健康と安全の懸念**
3. **食事と食育に関する問題**
4. **教員研修と働き方改革の必要性**

1. **教育と指導計画の問題**：

- 個別の指導計画が形式に囚われているという指摘があり、真に必要な指導が行えていない状況。
- 学校のICTの活用に関して、教員間のスキル差や余暇のiPadの使い方が問題として挙げられている。

2. **健康と安全の懸念**：

- 健康情報の遅延伝達や、学校施設の老朽化による安全上の問題が指摘されている。
- 熱中症対策としてエアコン設置の必要性も述べられている。

3. **食事と食育に関する問題**：

- 給食のメニューに偏りがあること、食育の指導が不十分であることが指摘されている。
- 食事時の摂食指導や栄養面の改善の必要性が述べられている。

4. **教員研修と働き方改革の必要性**：

- 教員の研修が必要であるとされ、特にICTスキルや個別の指導計画作成の技術向上が求められている。
- 労働時間の適正化や働き方改革の推進も提案されている。

現在、次年度に向けた改善案を各部署で検討し、方向性を学校全体でまとめている段階です。

緊急性が高く、即改善に取り組んだ項目

緊急性が高く、即改善に取り組んだ項目

☑地域への情報発信の仕方について、具体的に全校職員への明示。
☑危機管理マニュアルの存在・内容の周知
☑報告、連絡、相談の徹底・「基本の校内連絡体制」「事故対応チェックリスト」「個人情報に関わる配付物フローチャート」の活用
☑児童生徒を呼び捨てやあだ名で呼ぶこと。
☑児童生徒に対して厳しすぎると思われる指導。
☑児童生徒の手首を掴んで移動したり、動きを静止したりすること。
☑席を離れる際はパソコンを閉じる。

「できること、できる範囲で、コツコツと」

皆さん一人ひとりの力を貸してください。
チーム網養として一致団結していきましょう！